

ながのこどもわくわくカフェ



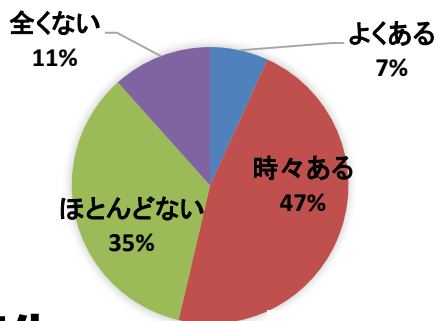
特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト
小笠原 憲子

1 事業の背景

乳幼児を持つ保護者

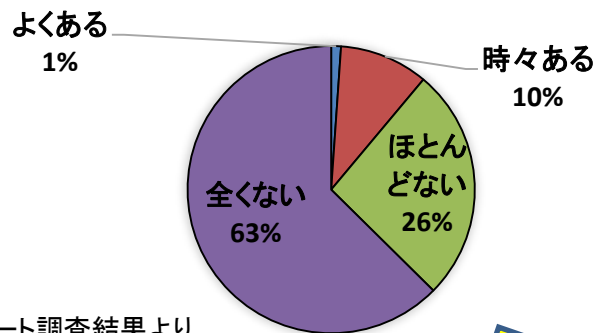
核家族化、アウェイ育児

自分一人で子どもを育てている圧迫感を感じる



孤立感・負担感を抱えて子育て

子どもがかわいいと思えない

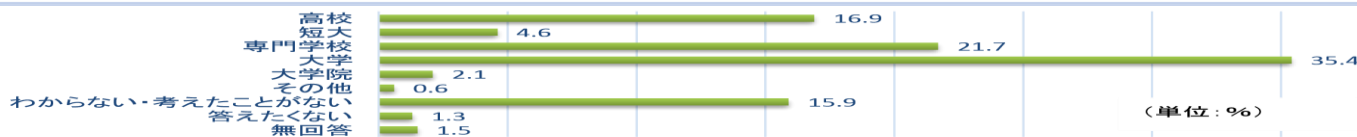


小・中・高生

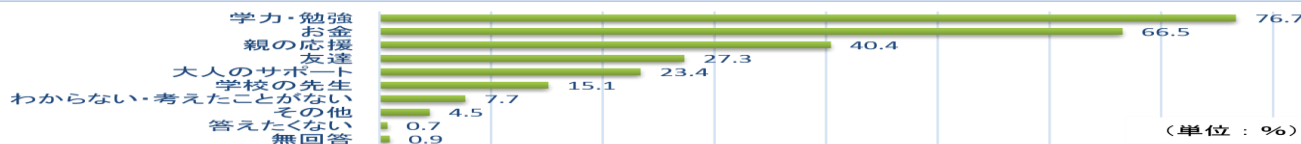
困難な環境にありながらも、夢を持つ子どもたちは、進学に向けた学習やサポートの場を求めている

資料：平成28年度こども広場利用者アンケート調査結果より

Q. あなたは将来、どのような学校まで行きたいですか。



Q. 将来の夢をかなえるために、必要なものは何ですか。(複数回答)



Q. 家以外で勉強する場所の代わりに、近所の公民館などにみんなで一緒に勉強する場所をつくるとしたら、どのようなところならば参加してみたいですか。(複数回答)



・地域のサポートのあり方が課題

資料：平成27年度「子どもの声」アンケート(ひとり親家庭児童)

- 子育て中の保護者

孤立感の解消や負担感の軽減のため、ニーズに合った支援体制を構築

- 学童期以降の子ども

様々な課題を持った子どもを対象とした「学習・相談・食事」支援を受け、「自己肯定感」を持って健やかに成長していくことができる体制を構築。

- 地域

NPO、住民組織や行政、企業などをコーディネートしながら、地域のサポート体制を確立。

- 実践プログラムの作成

地域の子育て支援力の向上を図るため、活動を踏まえ実践的なプログラムを作成。



子どもが健やかに成長できる社会

乳児期から思春期まで切れ目のない支援

乳児期 → 幼児期 → 学童期 → 思春期

子育て中の保護者の居場所

子育てサロン（ピーカーぶー）
子育てミニ講座
高齢者との交流



13時

こどもカフェ

学習支援
食事提供
悩み相談



思春期相談

町の保健室
中高生サロン



16時

17時

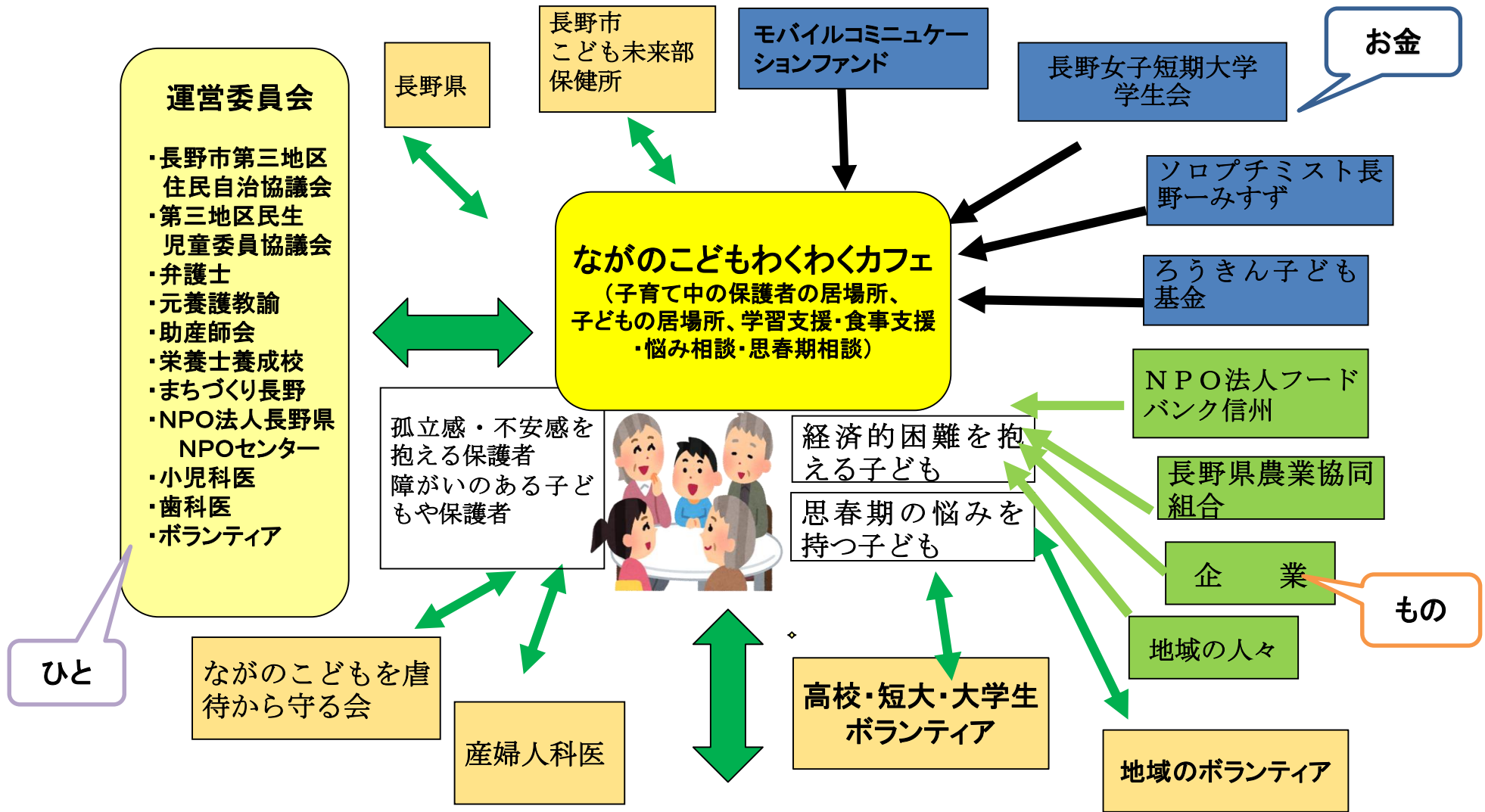
18時

19時

20時

「一場所多役」の居場所

ながのこどもわくわくカフェ実施体制



地域に支えられて
一場所多役の居場所

3 活動の実施内容

1 運営委員会の運営（3回）

元養護教諭、弁護士、小児科医、助産師、民生児童委員、地域の代表者等とネットワークを作り、運営委員会を開催。事業の計画・運営（広報・利用者の状況等）について協議・検証を行った。他に各活動責任者ミーティングを隔月で開催し、情報の共有、モチベーションのアップに努めた。

2 ながのこどもわくわくカフェの運営

(1) 子育て中の保護者の居場所（ぴーかーぶー）の運営（11回）

子育て中の保護者に対して、保護者同士のおしゃべり会、子育てミニ講座を通し、一人一人に寄り添った支援を行った。

(2) こどもカフェ（17回）

地域で支える「一場所多機能」な子どもだけでも通える居場所の運営。

学習支援：学習習慣、学習意欲の育成（小学生）、進学のための学力補完（中・高生）の学習支援を長野県NPOセンターと連携し行った。

悩み相談：学校・家庭生活、進学上の悩みなどを聞き、必要に応じて、専門機関への橋渡し

食事提供：栄養バランスに配慮したメニュー（地域食材を活用）の食事提供と食育活動を実施。運営は栄養士会有志と地域のボランティア、短期大学栄養士養成課程の教授と学生のボランティアで実施。

(3) 思春期相談の運営（月1回、年12回）

友人関係、思春期に起こる相談しにくい悩みについて、気軽に相談できる相談室を元養護教諭、助産師と連携し運営。

3 専従スタッフ・ボランティアの育成

他機関・長野県NPOセンター等との連携により、専従スタッフやボランティアの育成やスキルアップを図った。

4 得られた成果

子ども・子育て家庭

継続的参加により、ママ友
ができ、子育ての不安感・
負担感が軽減。エンパワ
メントされ拠点型広場へ



地域の人にとっても
居心地の良い居場所

地域

- ・ボランティアの育成・活動の場
- ・活動報告書が「子どもの居場所
コーディネーター養成講座テキスト」



学童期以降の子ども

社会性が育成
学習意欲が向上し、将来
の展望が開かれ自己肯定
感が醸成

通信制高校通学
中の利用者が看
護大学に推薦入
学決定



地域の子育ち・
子育て環境の向上

健やかな子どもの成長

5 残された課題と対策

子育て中の保護者の居場所

- ・必要な親子にサロンの情報が届いていない。⇒ 広報が課題
新聞・タウン誌 ⇒ 行政と連携したSNS
- ・ママたちが必要としている情報の提供が課題
↓
参加者へのアンケート調査、子育て情報の収集に努める。



学習支援

- ・集中力の切れやすい子どもへの対応が課題。⇒ モバイルプリンターの導入
↓
教材の提供が可能
- ・遠くから来ている子が多い。
ニーズの把握が課題
↓
一人一人に寄り添った支援

食事支援

- ・食数の変動が課題
⇒ 参加者のリピート率・視察者の増
⇒ 学校行事等の把握、調節可能な献立
- ・共食で食事の楽しさ・おいしさを体験
⇒ 大勢で食べるとおいしい楽しい時間



こころが満たされ、からだが育つ

地域

- ・地域のサポート体制の構築と維持が課題
- ・運営委員会の活性化と地域との連携強化。
- ・行政・他機関との連携強化。
- ・報告書を活用し支援者を育成・活動の場の提供。



- 子どもの居場所の運営は、SDGsの取り組み



中島恵理長野県副知事と一緒に夕ご飯

ながのわくわくこどもカフェとSDGs

- 目標1 貧困をなくそう
- 目標2 飢餓をゼロに
- 目標3 すべての人に健康と福祉を
- 目標4 質の高い教育をみんなに
- 目標12 持続可能な生産・消費
- 目標13 気候変動に具体的な対策を

